

おわりに

今回の調査協力していただく組織の了解、そして実際の事故に遭われた方々を探し、そして調査の了解を取ることがもっと大変な事であった。

調査を担当していただいた組織は、以下の通りである。

北海道：北海道農作業安全推進本部
岩手県：岩手大学農学部、保健管理センター
栃木県：栃木県農業機械士協議会
長野県：日本農村医学研究所・佐久総合病院
新潟県：えちご上越農業協同組合
富山県：富山県農村医学研究所、富山県厚生連
滋賀県：滋賀医科大学
兵庫県：兵庫県農業機械化協会
愛媛県：愛媛県農協中央会
福岡県：福岡県農業機械士協議会
佐賀県：佐賀市役所

調査に当たっては、事前研修会を開催し、調査方法、視点、留意点、報告様式等を統一し調査に当たった。また、いくつかの地区には、日本農村医学会の大浦、浅沼、また生研センターの志藤、積が調査に同行し、調査の要点等を現地で確認した。

得られた結果は、調査に直接当たった調査員を含め、全国農業機械士会、日本農業機械化協会、生研センター、日本農村医学会農機具災害特別プロジェクトのメンバーが一堂に会し、2日間にわたり個別事例ごとに課題と問題点について話し合った。

今回の調査は、受傷された方々、そして遺族の方々、そして調査に当たられた調査員の方々および関係団体の多くの人びとの協力で実施された。

こうした調査の結果、さまざまな新たな課題が具体的に明らかになってきた。労災予防の現場からするとまだまだ事例は圧倒的に少なく、具体性に欠ける面はあるが、「初めの一歩」として大きな成果が得られたと言える。

調査時において、またまとめの段階で大変驚いたのは、脚立の脚が開脚して転落した事例であった。富山で柿収穫時に脚立に昇っていて、脚が開いて転落事例を経験した。その後、愛媛の調査で全く同様にみかんの袋がけで脚立に昇っていて脚が開脚して転落した事例を見聞した。その原因は両者とも脚を大きく開いて使用せざるを得ない現場で、開脚防止のチェーンが届かず、かけていなかったために起こった事故であった。富山と愛媛、その直線距離は約500 km。日本の全く離れた場所で同じ形態の事故が起こっていた。もちろん、「開脚防止のチェーンをしなさい」は教科書的には書いてある。が、現場の条件からはかけられないくらい脚を伸ばさざるをえない状況があり、事故が起こっていた。同様の事例は、長野、栃木でもあり、脚立事故11例中、4例もあった。

このように、今まで個別に「危険な行為をしていた」、で済まされていた行為が具体的に、この事例のみならず、極めて重大な課題である事が明らかになった。

今回の事例調査は、数は少ないものの、その一件一件に貴重な教訓や今後への対策への方向を指し示すものであり、以下に紹介する項目毎の個別事例は、今後の農作業事故防止へ貴重な指針となると期待される。

最期に、つらい事故体験をお話下さいました被害者および遺族の皆様方、本当に有り難うございました。皆さま方のいのちの叫びを決して無駄にせず、農作業安全推進に向け関係者一同一層努力する事をお誓いしてお礼の言葉とさせていただきます。

調査実施者一覧（調査員）

NO	氏 名	所 属
1	館山 則義	北海道農作業安全運動推進本部・事務局長
2	武田 純一	岩手大学農学部農学生命課程生物産業科学コース 教授
3	渡邊有希償	岩手大学農学部農学生命課程生物産業科学コース 学生
4	綱川 欣典	栃木県農業機械士協議会・副会長
5	竹内 正則	えちご上越農協営農生活部 農業経営サポートセンター長
6	清水 薫	えちご上越農協営農生活部 農業経営サポートセンター
7	辻村 裕次	滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門 助教
8	岸本 美樹	兵庫県農業機械化協会・主事
9	藤原 誠	愛媛県農協中央会 農政担い手対策部
10	上野 博幸	福岡県農業機械士会 会長
11	荒井 崇宏	福岡県農林水産部農林水産物安全課 生産環境係 主任技師
12	川久保恵理	佐賀市役所農業振興課・主査
13	小淵 智子	佐賀市役所農業振興課・主事
14	小田林徳次	全国農業機械士会協議会・名誉会長 栃木県農業機械士協議会・会長
15	大浦 栄次	富山県農村医学研究所・主任研究員
16	立身 政信	日本農村医学会・副理事長 岩手大学保健管理センター・教授
17	松本 訓正	日本農業機械化協会・専務理事
18	浅沼 信治	日本農村医学研究所・客員研究員
19	志藤 博克	農研機構生研センター・特別研究チーム（安全） 主任研究員

平成24年4月

発行 全国農業機械士協議会

〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-16

(社) 日本農業機械化協会内

TEL 03-3297-5640 FAX 03-3297-5639

印刷 中央印刷株式会社